



2012.3.19

ストレスレス
トだの、福島事
故の知見だの技
術論だけで、原
発の再稼働を
決めていいので

すか？ 福島のある避難者は 私たちの精神的なス
トレスファストをしてほしいと言いました。人文学、
社会学、自然科学など、いろんな領域から総合的に
根本的に判断するべきでしょう。私には、敗戦まで
国策として続いた戦争の推進と、戦後の国策とし
ての原発推進とが重なり見えます。

満州事変からの歴史を振り返れば、主要な対外関
係のほとんどはアジアへの加害です。被害体験と
いえば終戦間近の本土空襲が挙げられますが、多く
の本土の日本人は加害体験を共有していません。
この構図は、原発立地に当てはまります。戦後、立
地地域は植民地のような役割を果たしてきました。
東京に原子力ムラならぬ宗主国があり、地元の
自治体、経済界が傀儡 かいらい 政権の役割を担っ
ています。地元の住民は宗主国の人々のため電氣
を送り続けています。彼らが原発を受け入れたの
は、都市部には当たり前インフラ整備が欲しかっ
たからです。先祖代々の悲願だったのです。
多くの日本人は、原発のメリットだけ享受し、原発

を受け入れた立地地域の思いは意識しなかった。加
害意識の欠如です。新聞の全国紙は地方版に地元
の思いは報じて、全国版ではほとんど扱ってこな
かった。

日本は原爆を2度落とされて、敗戦を受け入れた。
私たちも福島の次の原発事故が起ころなければ、
気づかないのでしょうか。福島県は脱原発を打ち出
しました。でも破局的な犠牲を払ってからのことで、
あまりに悲しい決断でした。福井は平和的に原発
から脱却する準備を始めべきです。

我々は大量の放射性廃棄物を残した。子々孫々に
わたる問題です。次世代には「ごめんささい。許し
てください」としか言えない。彼らの負担が少しで
も軽くなるよう、今、私たちは決断しなければいけ
ません。以上 山田理恵)

その後中嶋哲演さんは福井県庁にて断食

3月25日から3月31日まで、私は断食に入り
ます。この数日、食を少しずつ減量し、今朝は
玄米の薄い重湯を頂きました。昼の間は県庁の
ロビーで静かに座し、夜間は県庁近くに開設し
ているグリーンピースの事務所まで休養させても
らいます。

この40余年間、好むと好まざるにかかわ
らず、若狭の原発群との共存容認を余儀なく
されている間に、私自身に生じた歪んだ骨格を
正し、贅肉を削ぎ、濁った血液を浄化し、乱れが
ちの呼吸を整えるためでもあります。亦欲知
足「の精神をいささかなりとも体感したいので

す。

そして何よりも、かの東北の大地震・大津波・
福島原発震災で犠牲になり、被災されたすべて
の人々、生きとし生けるものに想いを寄せつつ、
若狭に、また何処にも、大人災の「原発震災」を
連発させないよう祈念し、先に述べた要望と行
動の広がりをお願いいたします。

広島原爆12万発分の「死の灰」、48万人もの
被曝労働者、新たなヒバクシヤ、原発震災の最
大の災害弱者たる福島の36万人もの子どもた
ちを一をすでに生み出してしまった国内54基の
原発。

子どもたち、若者たちに心から詫び、許しを
いながら、切なる希望をも伝えたいのです。
このまま若狭の全原発を止め続けられたら、お
金や形に代えられない深い安心と安全をとり
もどせるだろう、美しい若狭の海と浜辺と豊か
な海の幸を再生できるだろう、穏やかで奥深い
若狭の歴史と文化を再発見しよう、と。

中嶋哲演さんのハインストに連帯する

「原発いらない福島の女たち」の

リリースハインスト声明

福井県小浜市明通寺のご住職、中嶋哲演さんが
福井県庁ロビーで断食に入られました。

1979年3月、フリーマイル島原発事故が勃発し

た際、哲演さんは通産省資源エネルギー庁の口
 一で、静かに祈るのが本分である仏教者である私
 が、なぜ反原発運動に邁進するのか？お釈迦さま
 に授かった五戒の筆頭に不殺生戒（むせつぎょうか
 い）があります。殺すなかれ』だけでは、不十分で
 す。殺させるなかれ』を実践してはじめて不殺生
 戒を全うするところができるからです」と挨拶され
 ました。あれから30年以上が経ちました。「高齢
 の哲演さんがあえて断食に踏み切られたのは、な
 ぜでしょうか？

福島第一原発の事故のため、広大な地域が放射
 能に汚染され、多くの人がひとりわりけ子どもたち
 の命と健康が危険にさらされている今、あえて大
 飯原発3、4号機の再稼働を強行しようとする関
 西電力の姿勢は、国民多数の世論、そして福島で暮
 らす私たち、故郷を追われた私たちの切なる願い
 を踏みこむ暴挙そのものであり、断じて許すわ
 けにはいきません。

哲演さんの決意と祈りに、福島から、全国からう
 ながりたいたいと思います。地球上に生命（いのち）を
 授けられた者たち、大地、水、空気、動植物、すべて
 が日々脅かされています。世界中の原発の廃炉を
 心から願うわたしたち 原発いらない福島の人た
 ち「は、哲演さんに連帯し、リリーハンストに踏み
 切ることをここに表明します。

2012年3月31日

原発いらない福島の人たち

「福島に暮らす私たち、故郷を追われた私たち」

*私も一日ずつ三回参加しました！ 惟

放射線の恐ろしさを私たちは知らない

原爆と同じ東海村臨界事故
 被曝したJCO労働者・篠原理人さん（40歳）の治療経過の写真
 （第3回日本臨床救急医学会での公表写真）



篠原さん	9月30日	10月10日	11月10日	12月20日	1月4日
9月30日	臨界事故で顔や両腕に10シーベルトの中性子を浴びて被ばく。				
10月10日	外傷はないが紅斑、おうと、下痢、意識障害などがあらわれる。				
11月10日	皮膚が次々にはがれ、70%がはがれ落ちる。				
12月20日	両前腕部に皮膚移植をおこなう。				
1月4日	顔面へも皮膚移植がおこなわれたが、DNAの損傷で皮膚の再生能力は失われていた。				

れず、何を知ろうとしないのだろう。目を背けた
 い事実。それを知らずして今、何をどうすべきか
 の判断はできない。もし、真実を封
 印した所に「判断」が立ち現れれば、
 それに対しては疑問を持つこと、で
 きればそれを表現すること。そうし
 なければ、篠崎さんの苦しみは、た
 だの犠牲となるだけだ。私自身が篠
 原さんを犠牲にするだけだ。いや犠
 牲としていた。そういう生き方をし
 ていた。この写真は篠原さんのいの
 ちの姿だ。しっかりと目に焼きつけよ
 う。こんな悲惨な経験を誰かがする
 原子力で、暮らしていたんだ。それ
 を私はこれからも望むのか？

私たちは微力だ。いつでも誰でも
 犠牲者となる可能性がある。しかし
 実は最も大きい力を持っている。私
 たちの無関心が犠牲を犠牲にしてい
 るのだから。私たち大勢のものが、
 そのことを知り、伝えるという行動
 をすれば、何かが変わるにちがいな
 い。それぞれマスコミで与えられる
 コントロールされた可能性のある情

篠原理人さんはその後4月27日に亡くなった。
 7ヶ月にわたる苦しみに満ちた被曝との闘いを、
 私は知らなかった。知らされなかった、知ろうと
 しなかった。であるなら3・11以降何が知らさ

報につなげられた孤立した世界から、口（ミ）でつ
 ながるネットワークへ、移行しよう。「いのち」
 を真ん中にして、話し合おう。そして自分で、本
 当の事を探し求めよう。
 なむあみだぶつ
 （釋性蓮）